

産油国トレーニング協力事業報告(ベトナム)

1. 実施に至る経緯

ペトロベトナム (Petrovietnam) 向けカスタマイズド研修 (CPO: Customized Program Overseas 及び CPJ: Customized Program Japan) は、先方ニーズの多様化に対応して各種プログラムを策定・実施してきました。今回は本年度実施したカスタマイズド研修実施結果のレビューを行うとともに、引き続き新たな研修テーマに対応するため先方関連部署からのヒアリングを実施し、かつ今後のプログラム内容について各事業部門との意見交換を含め実施計画の具体化に向けて詳細討議を行うこととなりました。

本ミッションは、上述の目的のため JCCP からプログラム担当者 (宮脇新太郎、鈴木和廣) が参加し、平成 26 年 1 月 6 日 (月) ~ 1 月 10 日 (金) の間、Petrovietnam 本社及び各関連事業所において当該事項の検討を実施しました。

2. 実施内容

(1) Petrovietnam 本社

最初に訪問した人材開発部門 (Mr. Thinh Tuan Anh, Deputy General Manager, HRD & Training Division ほか) 及び設備技術部門 (Dr. Nguyen Tien Vinh, General Manager, Power Division ほか) において、カスタマイズド研修全般に関するレビュー及び意見交換を行いました。

従来の Petrovietnam 向けカスタマイズド研修 (CPJ) においては、研修生受け入れ人数 15 名 (うちリーダー 1 名) で実施してきており、今後の計画についても同程度の人数で実施してほしい旨、回答がありました。また研修プログラム内容についても、従来のテーマ「機械系コース及び計装制御系コース」を継続実施してほしいとの意向でした。なお、当センター予算の状況により CPO 及び CPJ の実施回数が制約されることもあり、その場合は予算に対応して適切な措置 (一例として 2 コース合体ケースなど) への配慮が必要となることもありうることを説明しました。これに対して、Petrovietnam 窓口からは、今後の予算対応については了承した旨、また予算対応後の再計画やスケジュール修正等が発生する場合には、その

都度、本社窓口及び関連部署にアナウンスしてほしい旨、要請がありました。

なお、現時点での想定としては、CPO 及び CPJ について、それぞれ当該年度上期及び下期にレギュラーコースとのバランスを考慮して可能な実施時期を選定したいという意向を伝えて了承されました。

本社電力技術部門からの希望として、現在プラント建設が進められている最新鋭発電設備の立地条件に関してホーチミン市よりハノイ市に近いことに鑑みて、次回の CPO 開催場所はハノイが望ましいのではないかとの見解が示されました。この関連で、CPO セミナー後半に 2 日間程度、セミナー講師 (専門家) を現地に派遣して現場課題解決のためのケーススタディも合わせて実施してほしいとの希望がありました。また CPO 計装制御コースの開催場所としては今後の選択肢として製油所での開催も視野に入れてほしいとのコメントがありました。

(2) Petrovietnam 関連事業所

本社に次いで、Petrovietnam 事業所各部門において、カスタマイズド研修の内容に関する意見聴取及び詳細討議を行いました。

今回、訪問した各事業所 (ホーチミン設備技術部門、カマウ発電設備部門、カマウ化学肥料部門、ヴンアン発電設備部門) で行ったヒアリング内容の骨子としては、カスタマイズド研修の具体化に関連して今後 Petrovietnam で建設が進められることになっている高効率火力発電設備に係るテーマを追加してほしいこと、特に技術進歩の著しい超々臨界 (Ultra Super Critical) タービン・ボイラー技術等もセミナー対象に加えてほしいこと、ボイラー技術にとって重要なテーマとして水処理技術に関する講義を含めてほしいこと等の要請がありました。

これらについては次回のカスタマイズド研修にて対応可能と考えられる案件については先方の希望に沿う形でスケジュール化を検討し、Petrovietnam 窓口との協議の上ファイナライズしたい旨を回答しました。



Petrovietnam 本社にて



カマウ発電設備部門にて



カマウ化学肥料部門にて



ヴァンアン発電設備部門にて

3. 総括

今回の訪問を振り返ってみると、ドイモイ政策に沿って着実に経済発展を進めている Petrovietnam の各事業部門においては、ニーズ多様化とともに技術高度化向けの発展が着実に推進されており、新規計画に基づく高効率発電設備建設が順調に進捗していることが特に印象に残りました。また今回の訪問先事業所が南北に長い国土を有するベトナム各地に点在していたにもかかわらず Petrovietnam 本社窓口の行き届いたアレンジにより短期間に各事業部門でのミーティングが可能と

なったこと、更にカスタマイズド研修に関する各分野の新たなニーズを把握することができたことを含め所期の目的に沿ってスケジュール通りに計画を完遂できたことは何よりの幸いでした。

今後引き続き Petrovietnam 各事業分野における新規テーマ等のヒアリングを通じて関連部門のニーズをとりいれながらカスタマイズド研修を実施することにより、当センターと Petrovietnam との安定した協調関係が更なる発展へとつながることを期待したいと思います。

(研修部 宮脇 新太郎)

